



Ahresty

ANNUAL REPORT 2006

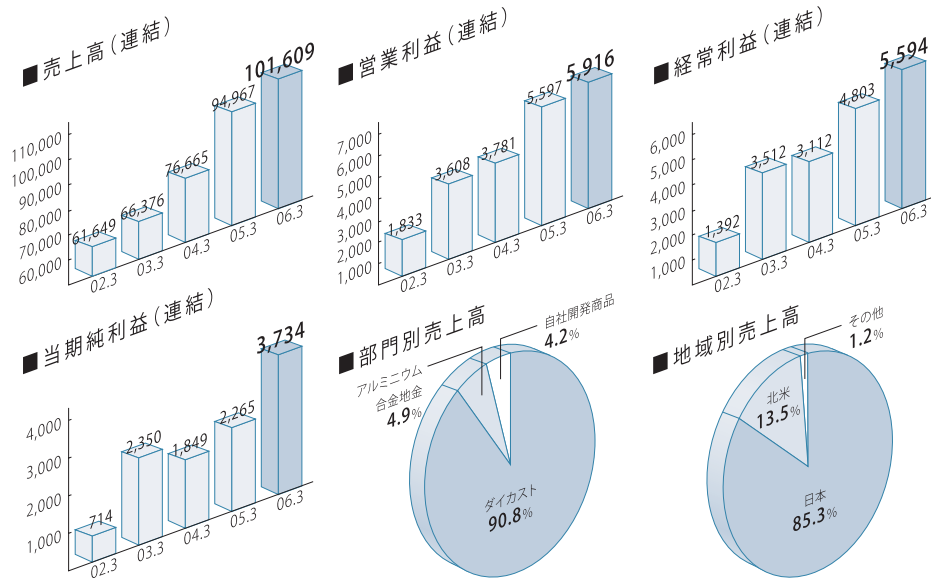
The Year Ended March 31 2006

Profile

Research, Service, Technologyを 追求していきます

アーレスティは、R・S・T<Research><Service><Technology>という三つの言葉の統合です。Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

Financial Highlights 業績ハイライト(単位：百万円未満切捨)



Contents

2 Business Overview

期中のトピックス

3 This is RST

ビジネスモデル
沿革

5 An Interview with the President

社長インタビュー

7 Segment Review

ダイカスト
アルミニウム合金地金
自社開発商品

13 Network

グローバル展開

15 CSR

社会への貢献
環境への対応

17 Corporate Governance

コーポレートガバナンス等

18 Corporate Data

会社概要

Business Overview

中国・広州の拠点が、いよいよ本格始動

広州阿雷斯提汽车配件有限公司では、05年4月から生産を開始し、日系自動車会社（スズキ・トヨタ・ホンダ・日産）向けにダイカスト部品の量産納入を行っています。また、阿雷斯提精密模具（広州）有限公司においても、05年12月から自社や日系自動車会社向けにダイカスト用金型供給を開始しています。



新たな国内製造拠点「アーレスティ山形」誕生

子会社である菅原精密工業株式会社とパスカル工業株式会社は、05年4月1日をもって合併し、アーレスティ山形へと商号変更しました。両社の経営資源を融合し事業の効率化を図るとともに、中小物製品の鋳造・加工における東日本の一貫生産拠点として稼働しています。



技術力の高さを評価されNADCAから表彰

高真空ダイカスト技術で開発した「リア・サブフレーム」が、NADCA（北米ダイカスト協会）主催による2006ダイカスティングコンペティションにおいてアルミニウムダイカスト製品10ポンド以上の部門で表彰されました。従来のスチール製品に比べ、強度を維持したまま重量を38%削減したことが評価されました。このようにアーレスティの技術力・品質力は、世界で高く評価されています。



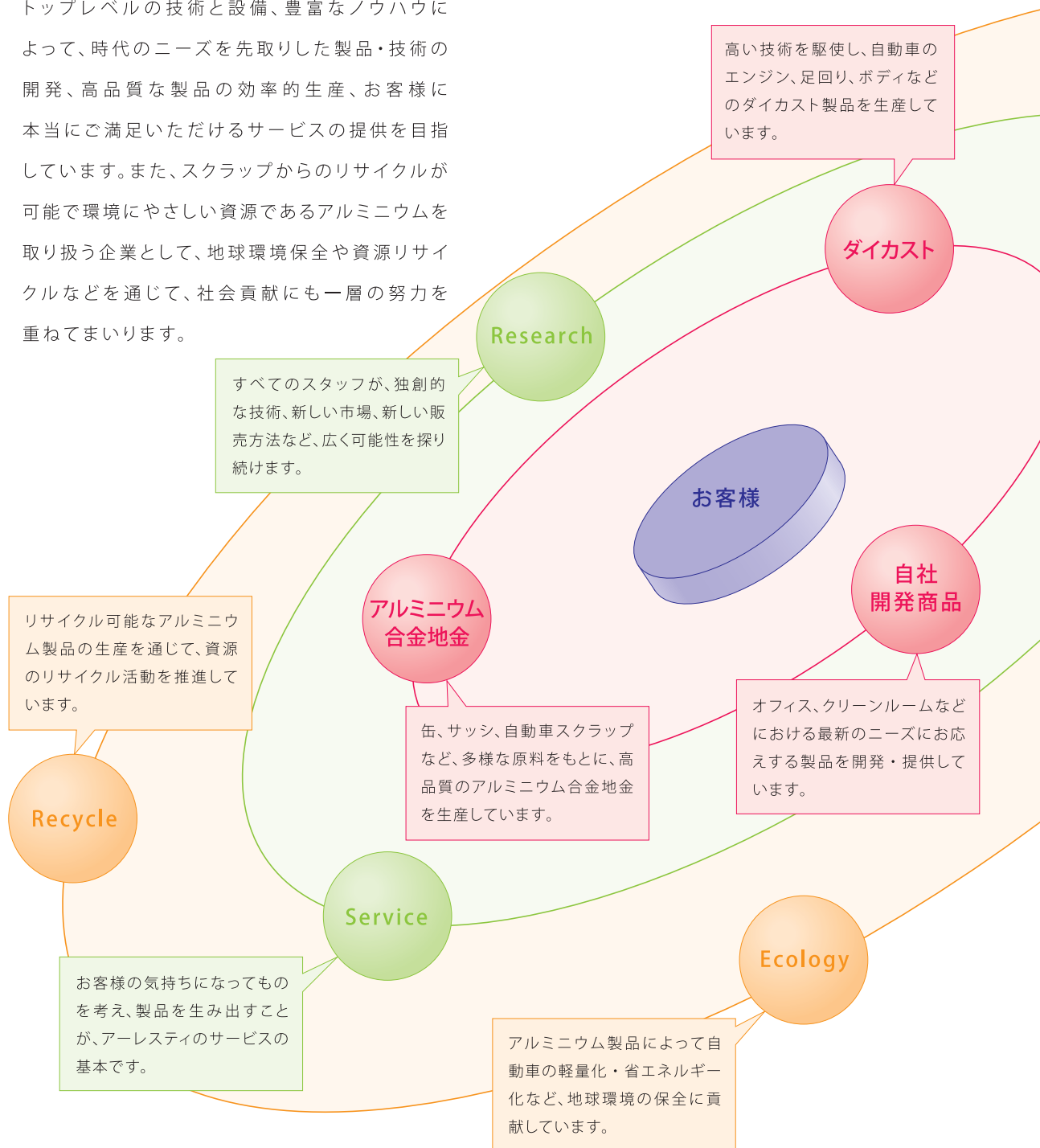
海外生産工場をメキシコにも開設予定

北米市場における自動車部品の需要増に対応し、新たにメキシコにもダイカストの生産工場を開設する計画です。日系自動車メーカーにおける海外生産拠点での部品現地調達化、新製品の「世界同時立ち上げ」をサポートできる、グローバルな拠点展開を一步ずつ進めています。

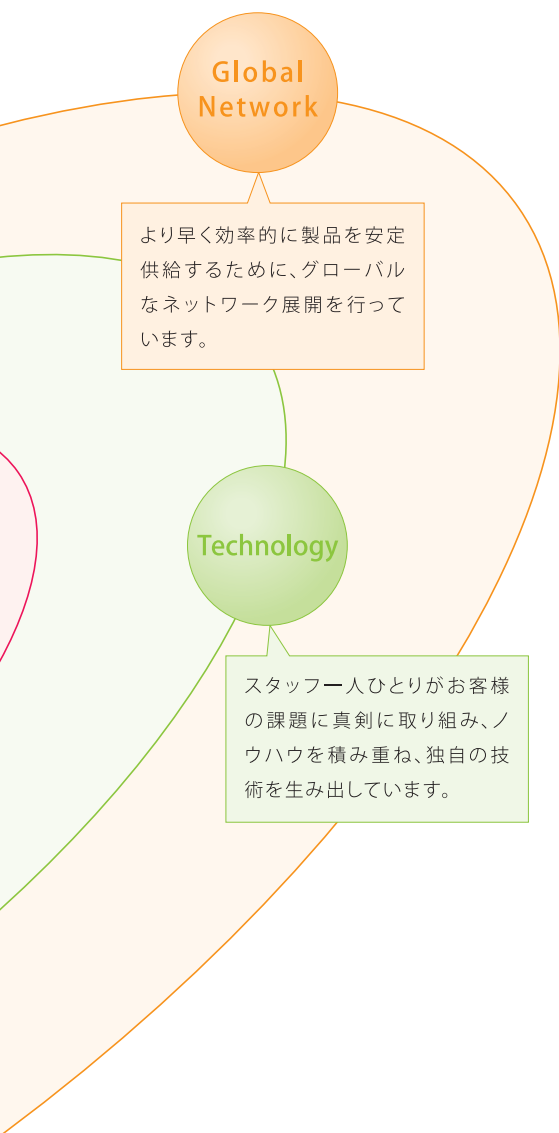
This is RS

Our Business

私たちは、社名に込められたResearch、Service、Technologyという3つの理念を大切に、業界トップレベルの技術と設備、豊富なノウハウによって、時代のニーズを先取りした製品・技術の開発、高品質な製品の効率的生産、お客様に本当にご満足いただけるサービスの提供を目指しています。また、スクラップからのリサイクルが可能で環境にやさしい資源であるアルミニウムを取り扱う企業として、地球環境保全や資源リサイクルなどを通じて、社会貢献にも一層の努力を重ねてまいります。



Our History



- 1938年 6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1943年 11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1954年 4月 ● 天竜金属工業株式会社を設立
- 1960年 3月 ● 株式会社日本精密金型製作所
(現：株式会社アーレスティ ダイモールド浜松)を設立
- 7月 ● 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始
- 1961年 10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所第2部ならびに、大阪証券取引所第2部に上場
- 1963年 3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場(現：豊橋工場)操業開始
- 1964年 1月 ● 扶桑軽合金株式会社技術研究所完成
- 1967年 8月 ● 台湾通用工具股份有限公司
(現：台湾阿雷斯提模具股份有限公司)を設立
- 1971年 4月 ● 栃木フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ栃木)を設立
- 1972年 3月 ● 株式会社ダイテック(現：株式会社アーレスティ ダイモールド)を設立
- 1977年 4月 ● 熊本フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ熊本)を設立
- 1982年 8月 ● 株式会社浜松メカテックを設立
- 12月 ● 京都軽金属株式会社(現：株式会社アーレスティライトメタル)を設立
- 1984年 4月 ● 株式会社シー・エス・フソーを設立
- 7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
- 8月 ● 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始
- 1985年 5月 ● パスカル販売株式会社(現：株式会社アーレスティテクノサービス)を設立
- 10月 ● 株式会社フソー技術研究所を設立
- 1987年 12月 ● 株式会社シー・エス・イー
(現：株式会社アーレスティ キャスティングサポート)を設立
- 1988年 5月 ● Ahresty Wilmington Corporationを設立
- 10月 ● 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更
- 1989年 10月 ● 株式会社アーレスティ '89年度デミング賞実施賞(中小企業賞)受賞
- 1994年 5月 ● ケイディーシーつくば株式会社(現：株式会社ATCつくば)を設立
- 1997年 2月 ● 株式会社アーレスティ ISO9001(芝刈機・草刈機)認証取得
THAI AHRESTY DIE CO.,LTD.を設立
- 3月 ● 株式会社アーレスティ ISO9001(建材)認証取得
株式会社アーレスティ ISO9002(ダイカスト・アルミニウム)認証取得
- 2001年 3月 ● 株式会社アーレスティ ISO14001認証取得
- 7月 ● THAI AHRESTY ENGINEERING CO.,LTD.を設立
- 2003年 8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
- 10月 ● 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アーレスティが合併
- 11月 ● 第20回素形材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞
- 2005年 3月 ● 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司を設立
- 4月 ● パスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に変更

An Interview with the P

高まる需要とお客様の期待を背に
グローバルな成長のステージへ



取締役社長 高橋 新

ew resident

ダイカストをコアとした自動車部品メーカーとして さらに付加価値を追求し、信頼と実績のある企業へ

日本の自動車産業がグローバルで好調であった06年3月期、アーレスティも、主力であるアルミニウムダイカスト事業を中心に、好業績を収めることができました。また、地球環境、原油高の影響から、自動車の軽量化のニーズがますます高まり、鉄からアルミニウムへの原材料シフトが進んでいる中、付加価値のある商品を安定して供給してきたアーレスティには、新製品／新技術開発への期待も高まっております。現在、製品の約70%が自動車部品であり、「アルミニウムダイカストをコアとした自動車部品メーカー」を経営ビジョンに掲げる我々にとって、大きな実績を残すことができた1年であったと考えております。

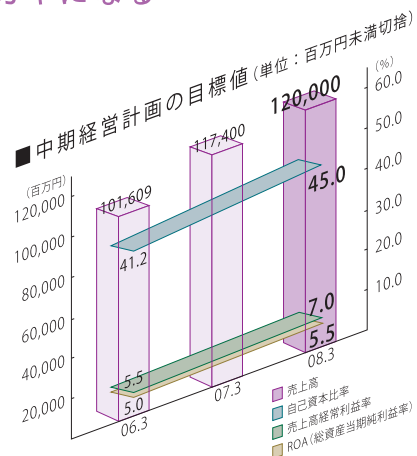
一方、需要高の影響で、現状の生産拠点がフルキャパシティとなりつつあります。我々は、設備増強が後手にまわらないよう、設備の能力拡大、改善と、国内外に新規拠点を置くことを急務としております。モータリゼーションが急速な海外での展開では、アメリカ、中国と、第三の拠点であるメキシコを加え、新たな成長期を迎えたいと考えております。

アーレスティは、株主の皆様をはじめ、顧客、投資家、取引先、社会から信頼される企業として、健全な成長を目指してまいります。今後も、国内外での拡張と発展を目指すアーレスティにご期待くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

中期経営計画の骨子

07年3月期以降の成長は、グローバルで品質の優れた製品を 常に安定供給できる生産力の確保がカギになる

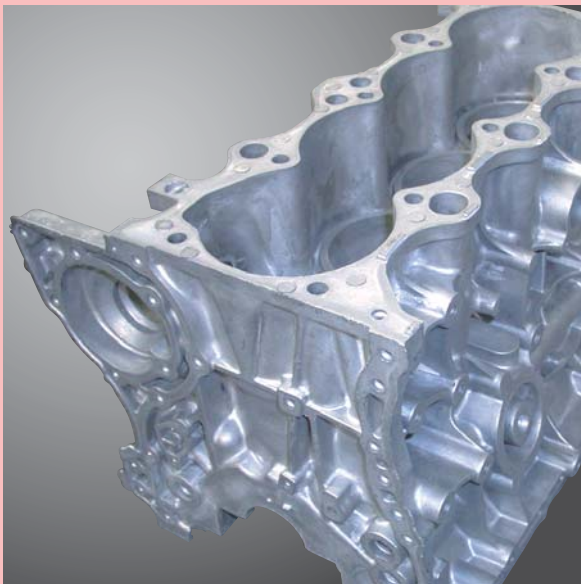
自動車産業では、軽量化を求める声がますます強まっています。アーレスティは、従来のエンジンやミッション製品に加え、足回りとボディのアルミニウムダイカスト製品を開発し、新たな主力製品として育てていきます。高まる需要に対応するために、国内では、愛知県豊橋工場近隣に新たな工場用地を取得し、能力増強を推進中であり、海外では、北米エリアとの連携拠点として、メキシコに新たな生産工場を建設予定です。



Segment

ダイカスト

他社に先駆けて新技術を次々と開発。
ダイカスト業界で
トップレベルの信頼を獲得。

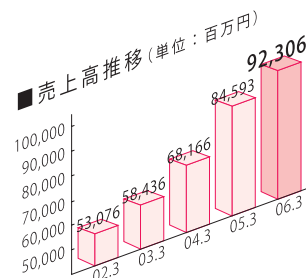


アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

Review

📦 今期の業績報告

主力製品である四輪部品は、新規品の立ち上がり、好調な自動車各社の輸出に支えられ9.1%の増加となりました。二輪部品は、国内需要の回復による生産増に伴い18.3%の増加となりました。汎用エンジン部品も総じて好調に推移し5.0%の増加となりました。収益面においては、原価低減活動等を積極的に進めてまいりました。この結果、売上高は92,306百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は5,420百万円(前年同期比7.4%増)となりました。



📦 来期への展望

グローバルでの競争激化に迅速かつ柔軟に対応していくために、品質・コスト・納入・開発のすべての面で、「顧客ニーズの先を行く企業」を目指してまいります。具体的には、世界に誇れる品質を目指した品質向上活動、グローバル価格競争力の実現に向けた革新的生産効率の追求による原価低減活動、グローバル供給体制の検討・展開、市場分析に基づく提案型製品開発及び新しい需要創出につながる技術開発を推進してまいります。

技術・開発・営業最前線

海外展開を見据えた足がかりができた

06年3月期は、アーレスティの技術を海外向けに棚卸をしてきた1年であり、それらを標準化することで海外での需要を増やす足がかりができたと考えています。今後は鋳造における低圧化や機械加工におけるコストダウン技術を進めて、競争力のある技術を確立していきたいと考えています。また新しい需要につながる足回りやボディ製品の開発などを推進していきます。



執行役員
技術部長
工学博士 三中西 信治

国内外で競争できる販売体制が整った

「お客様のニーズがあるところに、アーレスティがある」。それが、我々の目指す販売体制です。自動車業界は、「世界同時立ち上げ」がキーワードです。日本をマザー機能とし、北米と中国を海外主要拠点とする体制が整った06年3月期は、当社が世界における競争のスタートラインに立てた年です。今後も世界の需要に応じて海外展開を推進していきます。



常務執行役員
営業本部長
小木 旭

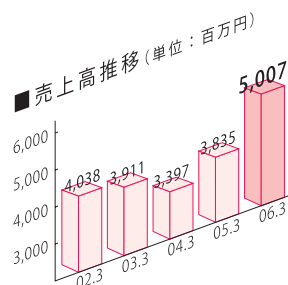
業界トップクラスの設備とノウハウで、 多様な材料から高品質の製品を生産。



アーレスティ熊谷工場は、1958年、業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場に認定され、1997年には、改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として、全国で初めて通産省から認定を受けました。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなど、多様な原料をもとに機械的性質に優れたアルミニウム合金地金を生産しています。アーレスティが持つ最新の設備、卓越したリサイクルのノウハウによって、工業用地金として活用されています。アルミニウムインゴットの月産能力は3,000トン。日本各地へと出荷され、高い信頼を得ています。

📦 今期の業績報告

営業戦略の見直しによりアルミニウム地金の販売重量が前期に比べ15.3%増加し、下期地金価格の高騰に伴う、販売価格上昇の影響もあり、売上高は5,007百万円(前年同期比30.6%増)となりました。収益面においては、生産性の改善を進めましたが、重油価格の上昇、原料価格の高騰の影響により、営業利益は234百万円(前年同期比9.6%増)となりました。



📦 来期への展望

「社会と共に歩む企業」を実現するため、当部門においては循環型社会の構築の一翼を担う自負を持ち、今後ますます増加し続けるアルミニウムの再生事業を通じて社会への責務を果たし、海外生産拠点の設置も視野にアルミリサイクル事業の拡大と収益向上を目指してまいります。

技術・開発・営業最前線

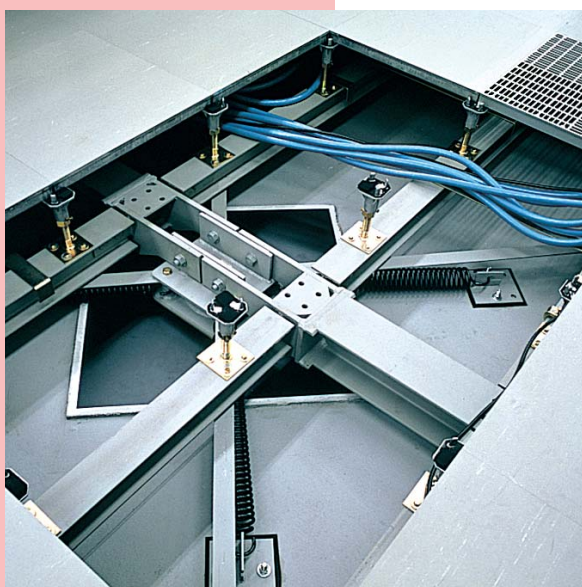
量、質、価格ともに安定して供給する

当部門では、06年3月期に約20社の新規取引先を獲得しました。05年3月期より、為替や原料相場の影響を受けにくい事業展開の構築に努めてきた中で、新規取引先の獲得は大きなリスクヘッジであると考えています。新規取引先獲得の理由として、「リサイクル工場とダイカスト工場の両方を持つ唯一の企業」という点で、高い評価をいただいていることが挙げられます。また、鋳物の特性を知る技術者を持ち、プラズマ分光器をはじめとして化学分析装置を備え、プロフェッショナルとして顧客にサジェスションできることも強みです。取扱量は、現在の年間30,000トンから33,000トンに増やし、08年までに36,000トンを目指します。地金は、顧客が求める量を安定して供給できなければなりません。もちろん、品質、価格面でも安定をはかり、本当の意味での「安定供給」を目指しています。



執行役員
熊谷工場長・アルミ営業部長
古屋 茂

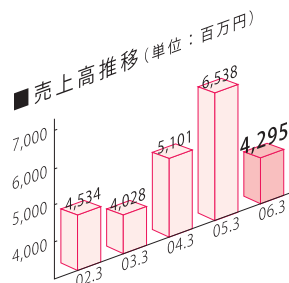
各方面で導入が進むフリーアクセスフロア。 時代のニーズに応じて次々と新製品を開発。



1962年、日本初のアルミニウムダイカスト製フリーアクセスフロアを開発しました。以来、時代のニーズに応え、次々と新商品を開発しています。フリーアクセスフロアとは、コンピュータ室や放送スタジオなど、配線が多い部屋で、その配線が邪魔にならないように収納できる二重床のことです。最近是一般オフィス、病院、クリーンルーム、新しく建築されるインテリジェントビルは、すべて二重床です。アーレスティのフリーアクセスフロア『モバフロア』は、都庁舎（東京・新宿）、センチュリータワー（東京・水道橋）、ランドマークタワー（横浜・みなとみらい21）、関西国際空港、東芝四日市工場（三重）などで採用されています。

📦 今期の業績報告

主力商品の建材は、半導体・液晶関連の設備投資、OA市場の落ち込みに伴い、フリーアクセスフロアの出荷量が前年度比9.8%減となり、売上高が4,140百万円（前年同期比34.5%減）となりました。園芸用品は、上期で園芸事業から撤退した関係で売上高が155百万円（前年同期比25.4%減）となりました。収益面においては、建材製品の収益改善を進め営業利益率が上昇しましたが、営業利益は262百万円（前年同期比22.6%減）となりました。



📦 来期への展望

自社開発商品事業では、国内外の競合メーカーとの価格競争が激化する中、クリーンルーム向けアルミニウムダイカストフロア（モバフロア）の一貫生産における原価低減を進めるとともに、利益率重視の営業活動を推進しております。さらに海外売上高の拡大のため、海外生産拠点の活用も視野に事業拡大と収益向上を目指してまいります。

技術・開発・営業最前線

顧客ニーズを反映させた製品の力で挽回を目指す

06年3月期は、半導体企業などの需要が全体的に減った影響を受け、また、当部門05年3月期の業績が好調であったため、売上前年比44%減にとどまりました。しかし、この時期に我々は、顧客ニーズの再発掘に努めてきました。また、モバフロア、モバフレックスに次ぐ新製品開発の専属担当者を配し、顧客ニーズに確実に応えられる製品開発及び改良に努めてきました。モバフロアをはじめとするアーレスティ製品は、品質の高さが大きなアピールポイントですが、海外メーカーとのコスト競争では単価が高いという側面があり、製造コストダウンがこれからの課題となると考えています。販売面では、現在、薄型テレビの売れ行きが好調で、自動車産業も引き続き好調であることから、大手メーカーを中心にクリーンルームでの需要増加が見込めます。海外展開では、中国広州工場の活用を視野に入れて、中国、台湾、韓国、東南アジアでの市場シェア獲得を目指しています。当部門は、07年3月期以降の成長目標を年5%に設定し、挽回に努めていきます。



執行役員
商品営業部長
堤 洋一

Network

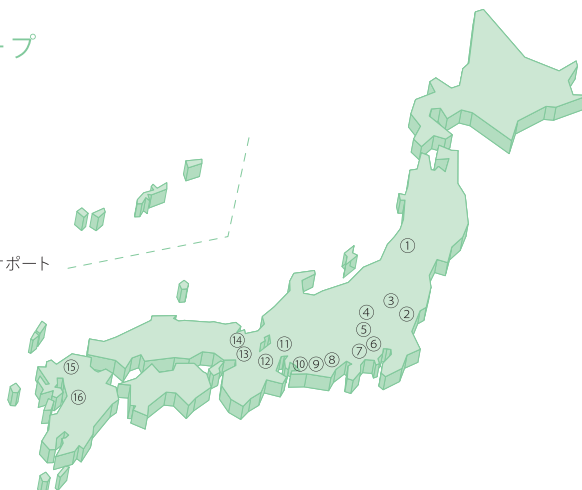
世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています。

より早く効率的にお客様に製品を安定供給するために、アーレスティは積極的に海外展開を推進しています。アメリカ オハイオ州ウィルミントンに次ぎ、中国広州にもダイカスト製造工場を設立。これまで培ってきた技術とノウハウをそのまま活かし、高品質な製品を製造・販売しています。また台湾、タイ、広州の金型拠点も含め、材料・金型・ダイカストなどすべての事業において相互補完体制を構築し、グローバルかつグループ・ワイドでの全体最適の実現を目指しています。

国内ネットワーク

アーレスティグループ

- ① (株)アーレスティ山形
- ② (株)ATCつくば
- ③ 栃木営業所
(株)アーレスティ栃木
(株)アーレスティダイモールド
- ④ 熊谷工場
(株)アーレスティキャスティングサポート
- ⑤ 東松山工場
- ⑥ 本社
板橋事業所
関東営業所
(株)アーレスティテクノサービス
- ⑦ 厚木営業所
- ⑧ 天竜金属工業(株)
(株)シー・エス・フソー



- ⑨ 浜松営業所
浜松工場
(株)アーレスティダイモールド浜松
(株)浜松メカテック
(株)アーレスティテクノサービス浜松センター
- ⑩ 豊橋工場
(株)アーレスティライトメタル
- ⑪ 名古屋営業所
- ⑫ 鈴鹿出張所
- ⑬ 大阪管理センター
大阪営業所
関西営業所
- ⑭ (株)新京都精機
- ⑮ 福岡営業所
福岡アルミ工業(株)
- ⑯ 熊本営業所
(株)アーレスティ熊本
(株)アーレスティダイモールド熊本工場

※2006年6月1日現在



広州阿雷斯提汽车配件有限公司

04年度に操業開始。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担い、日系企業に供給開始しました。月産能力は200トン。

中華人民共和国広東省広州経済技術開発区永和経済区新豊路7号



Ahresty Wilmington Corporation

売上が伸びつつある北米の拠点として機能。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,200トン。

2627 S.South Street, Wilmington, Ohio 45177, U.S.A.



東松山工場

〒355-0812

埼玉県比企郡滑川町大字都25-27
TEL.0493-56-4421



熊谷工場

〒360-8543

埼玉県熊谷市御稜ヶ原284-11
TEL.048-533-5161



浜松工場

〒433-8520

静岡県浜松市小豆餅4-14-1
TEL.053-436-2111



豊橋工場

〒441-3153

愛知県豊橋市二川町字東向山80
TEL.0532-41-0511



株式会社アーレスティ山形

〒992-0832

山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥乙65
TEL.0238-85-5233



株式会社アーレスティ栃木

〒321-0215

栃木県下都賀郡壬生町大字壬生乙4060
TEL.0282-82-5111



株式会社アーレスティ熊本

〒869-0521

熊本県宇城市松橋町浦川内36
TEL.0964-33-3111

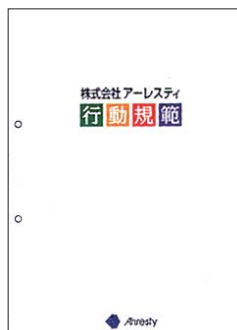
Corporate Social

In-House Activity

社会に貢献していく企業であるために…。
そのための努力を絶えることなく続けていきます。

アーレスティはお客様のビジネスの発展に貢献していくことはもちろん、企業市民としての社会的な責任を重視した活動にも積極的に取り組んでいます。環境保全活動への全社的な取り組みに加え、全社員一人ひとりが遵守すべき事項となる「アーレスティコンプライアンス基本方針」と日常の業務遂行において遵守すべき基本的事項を定めた「アーレスティ行動規範」を制定。コンプライアンス委員会事務局を設置し、企業活動を行うにあたって適用される法令をはじめ、企業倫理、社内規定を遵守する体制を強化しています。

アーレスティ行動規範



- ① 総則（規範の趣旨・遵守の責任に関する規定）
- ② 顧客・取引先との関係（自由競争と公正な取引等に関する規定）
- ③ 株主・投資家との関係（企業情報、インサイダー取引等に関する規定）
- ④ 従業員との関係（人権尊重、プライバシーの保護等に関する規定）
- ⑤ 会社・会社財産・情報の管理（企業秘密、知的財産等に関する規定）
- ⑥ 社会との関係（寄付行為、政治献金等に関する規定）
- ⑦ 実施要領について

社員研修



お客様に、より質の高い技術とサービスを提供するために、Q Cサークル活動等を積極的に行い、技術と意識を高めていく努力を続けています。

工場見学の積極的な受け入れ



地域コミュニケーションの一環として、また環境活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくため、積極的に工場見学を受け入れています。

Responsibility

For Environment

環境負荷をできるかぎり減らす努力を重ね、 「環境にやさしい企業」を目指しています。

アーレスティでは、美しい地球環境を守るために、私たちが持つ技術の応用、環境に配慮した製品づくりなどの面から、一步一步環境保全活動を続けています。原料からつくる場合の約3%のエネルギーで再生できるアルミニウムは「リサイクルの優等生」と呼ばれ、自動車の軽量化を通してCO₂削減に貢献するなど、環境にやさしい性質を持った金属です。私たちは循環型社会を推進するリサイクル事業と、廃棄物ゼロ活動や省エネ・省資源、LCA (Life Cycle Assessment) などに積極的に取り組むことによって「環境にやさしい企業」の実現を目指しています。

ISO14001 認証取得



ISO14001:2004認証取得
本社、浜松工場、東松山工場、
熊谷工場、豊橋工場、
株式会社アーレスティ栃木、
株式会社アーレスティ熊本

左記の事業所等で
ISO14001:2004
認証を取得し、地
球環境の保全に貢
献しています。

環境報告書2006

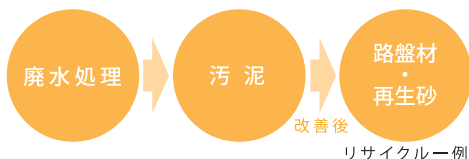


アーレスティでは、毎
年、環境報告書を発行
しています。事業活動
を通じた環境への取り
組みを、ステークホル
ダーの皆様に広くご理

解いただけるよう努めています。

環境保全への配慮

廃棄物ゼロ工場を目指し、廃棄物再資源化に取り組んでいます。従来埋め立て処分されていた汚泥を、路盤材や再生砂にリサイクルできるようにしたことが一例です。



地域社会でのクリーン作戦



アーレスティでは、
地域との共生を
目指した活動を
重視しています。

地域社会への貢献として、工場周辺を中心とした「クリーン作戦」を積極的に行っています。

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、開発力・技術力を基盤として軽量なアルミニウムの特性を活かした新分野の開発を進める一方、低コストの実現、高品質化による差別化を追求してきました。顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会という「すべてのステークホルダーから信頼される企業」を目指すためにも、企業価値の継続的な向上が重要であることを認識し「競争力の強化」「透明性の高い健全な経営」の観点より、コーポレート・ガバナンスの充実を図りながら経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築するべく推進してまいります。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- ① 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- ② 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- ③ 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- ④ 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- ⑤ 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- ⑥ 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- ⑦ 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- ⑧ 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- ⑨ 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- ⑩ 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

Corporate Data

会社概要 (平成18年3月31日現在)

商 号 株式会社アーレスティ 資 本 金 51億1,759万円
 設 立 昭和18年11月2日 従 業 員 数 【連 結】 2,622名
 【単 独】 950名

役 員

■取締役および監査役の氏名 (平成18年6月23日現在)

代表取締役社長 高橋 新 取締役 林 禎一 常勤監査役 宇野 信夫
 最高執行責任者 取締役 執行役員 平等 佳男 取締役 執行役員 古屋 茂 常勤監査役 熊木 勉
 取締役 専務執行役員 取締役 監査役 大崎 巖男
 取締役 常務執行役員 小木 旭 取締役 監査役 早乙女 唯夫

Investor Information

株式状況 (平成18年3月31日現在)

●株式数および株主数

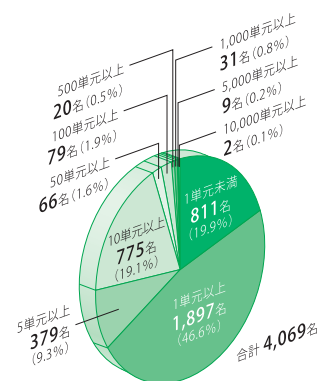
会社が発行する株式の総数 60,000,000株
 発行済株式総数 20,660,670株
 株 主 数 4,069名

●大株主 (上位10名)

株 主 名	持株数 (千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社信託口	1,427
高橋 利江	1,075
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社信託口	958
株式会社三菱東京UFJ銀行	765
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー 505019	722
本田技研工業株式会社	672
日本軽金属株式会社	657
スズキ株式会社	565
指定単受託者三井アセット信託銀行 株式会社1口	560
株式会社みずほコーポレート銀行	544

株式の分布状況

●所有株数別株主分布



●所有者数別株主分布

